立教一八六年　天理教青年会　基本方針

心を澄ます毎日を。

新型コロナウイルスの世界的流行は、
これまでの日常に変化をもたらし、
さまざまな問いを生み出した。

青年会は何のためにあるのか。
私たちはなぜ信仰するのか。
信仰するとはどういうことなのか。

問いは、対話を生み、対話は、気付きを生んだ。

その気付きは、
信仰は〝日々〟だということ。
教えの台といわれる
かしもの・かりものの理に基づく生き方が、
今、求められている、ということ。

私たちの体をはじめ、
あらゆるものは親神様の御守護によってここにある。
お互いはきょうだいであり、
皆、親神様の懐で暮らしている。

その中で起こるさまざまな出来事は、
心を澄ましてほしいという親神様からのメッセージ。
まずは心のほこりを払い、
自分自身が変わろうとする姿勢を大切にしたい。

教祖は、教えに基づく生き方を、
自らの行動をもって伝えられた。
その根底にあるのは、
人にこうなってもらいたい、誰かにああしてほしい
と求める心ではなく、
可愛い子どもをたすけたい
という与える心。

言い換えれば、
人の良いよう、喜ぶよう、たすかるようにという、
誠の心。

教祖百四十年祭へ向かう三年千日は、
一人ひとりが教祖のひながたをたどり、
親神様の思いに近づく旬。

心を澄ます毎日を。